

2020年度（令和2年度）

福山市教育委員会会議録（第11回）

【1月20日（水）開催】

福山市教育委員会

福山市教育委員会会議録（第11回）

1 招集年月日 2021年（令和3年）1月20日（水）
午後2時00分

2 場 所 教育委員室

3 出席委員 5名

出席又は欠席	席番	名 前
出席	1	三好雅章
出席	2	菅田章代
出席	3	金 仁 洙
出席	4	神原多恵
出席	5	横藤田 晋

4 会議に出席した事務局職員

教育次長兼学校教育部長事務取扱	佐藤元彦
管理部長	金尾直樹
教育総務課長	來山浩一郎
学校再編推進室長	藤井紀子
学校再編推進室主幹	井上誠之
学事課長	亀山貴治
学びづくり課長	井上博貴

5 会議の書記

教育総務課総務政策担当次長	須藤 誠
教育総務課職員	杉野 純一
教育総務課職員	中村 千咲

【開会時刻 午後2時05分】

- 三好教育長 それでは、ただいまから、2020年度（令和2年度）第11回福山市教育委員会会議を開会いたします。
- 三好教育長 本日の議案ですが、議第65号は、個人情報を含む案件のため、福山市教育委員会会議規則第13条第1項の規定により秘密会として審議し、審議の順番は公開する案件の後としたいと考えますが、御異議はございませんか。
- 全教育委員 （異議なし）
- 三好教育長 御異議なしということで、これらの案件は秘密会とし、その他の案件は公開といたします。
初めに、日程第1 教育委員会会議録の承認についてです。
2020年12月23日開催の2020年度（令和2年度）第10回の教育委員会会議録について、何かございますか。
- 全教育委員 （異議なし）
- 三好教育長 御異議ないようですので、教育委員会会議録を承認することとし、会議終了後、委員の皆さまの署名をお願いいたします。
- 三好教育長 次に、日程第2 教育長の報告についてです。
1 ページ、「1 教育長報告」をお願いします。再編にあたり、12月17日の常金丸地区の地域説明会に続き、12月26日に新市中央中学校地区の地域説明会を行いました。その地域説明会を受けて、昨日1月19日の夜に第1回目の開校準備委員会を開催し、開校に向けてスタートを切りました。
前後しますが、1月5日、新しい年が始まり3学期を迎え、100NE N教育6年目のスタートにあたり、校長会議を行いました。こういう状況の中でオンラインに慣れるという意味も含め、オンラインでの校長会議としました。
また、図書館改装にあたっての完成式や学校で授業を見ての校長、教職員等との対話を行っています。コロナ感染拡大の中、子どもたちも元気に、また、教職員も感染対策をしながら教育活動を行っています。
- 三好教育長 続きまして、2ページの「2 学校の主体性と創意工夫による「福山100NEN教育」の更なる推進について～指導・支援体制の充実に向けて～」です。
- 三好教育長 趣旨について、私から説明します。2020年（令和2年）11月5日付けで、市長から、「新学習指導要領に対応するために校長に求められる変革に関し、教育委員会の求めに十分対応しきれていない校長がいると同時に、そうした校長に対するサポートや校長からの相談に対応する適切な指導体制が必ずしも十分でないことから、より適切な相談・指導体制の構築に努めるよう」通知を受けております。このことに対し、教育委員会としては、その通知を真摯に受け止め、「福山100NEN教育」6年目となる今年、2021年（令和3年）は、これまでの取組も踏まえ、校長をはじめ教職員が、より主体的・創造的な学校経営を行えるよう、校長とともに教職員とともに、しっかり取り組んでいくために、指導・支援体制の充実を図ることとしています。

三好教育長

これまでの取組と成果、以降については、教育次長から説明します。

佐藤教育次長

それでは、私の方から、(2) これまでの取組と成果以降について、資料に沿って御説明します。新学習指導要領は、小学校で本年度から実施し、中学校で来年度から実施することになります。教育委員会では、国の新学習指導要領の議論を踏まえ、2016年(平成28年)1月に宣言した、「福山100NEN教育の推進」を基本理念に、「子ども主体の学び」づくりの取組をスタートしました。具体的には、日々の授業を中心として、これからの変化の激しい社会を生きる子どもたちには、これまでの「何を知っているか」ではなく、「知識を活用し、協働して新たな価値観を生み出せるか」ということが求められています。課題発見・解決力、挑戦する力、粘り強さや忍耐力、コミュニケーション能力などの資質・能力、これを21世紀型“スキル&倫理観”と呼んでいます。それを身に付けさせることを目指し、各学校現場で工夫した学びづくりの取組が進められていくよう、支援しているところです。特に、校長には、相当な覚悟を持ってリーダーシップを発揮し、従来の教育を変革してもらう必要があることから、これまで校長研修や校長面談、学校訪問、各種研修等に継続的に取り組んできました。その結果、一昨年と昨年度に校長をはじめ教職員を対象に実施した、子ども主体の学びづくりの取組などに関するアンケートにおいて、7、8割の校長から肯定的かつ積極的な回答がなされており、多くの学校において、確実に、日々の授業や教育活動が子ども主体へと変わっていることがうかがわれます。また、それら校長からは、「学校の意味を尊重してもらい、思い切った挑戦ができています。」といった意見がありました。教育委員会としては、各校それぞれの状況の中で、「子どもの学び」を中心に据えた議論が始まり、日々の授業や教育活動が子ども主体へと変わってきているものと認識しているところです。

次に、(3) 課題と改善策です。教育委員会の学校に対する認識は、今、御説明したとおりですが、市長通知において指摘があったように、未だ、新学習指導要領に対応するために校長に求められる変革に関し、十分対応しきれていない校長が存在しているという課題があります。そこで、すべての学校において、子どもたちが新学習指導要領に基づいた授業により、確かな学びにつなげていくため、次のとおり、教育の変革に対する理解・取組が十分でない校長に対する指導・助言を充実すると共に、新たな指導・支援策を講じることといたします。

3ページをお願いします。指導・支援策の柱を三つに取りまとめています。ア 校長等研修、イ 状況把握及び相談・指導体制、ウ 情報の共有化及び施策への反映です。ア 校長等研修では、従来から、大学教授等の外部講師による理論研修、授業に基づく実践研修や定例的な一斉研修を計画的に行ってきたところですが、これらを次のように発展させます。

(ア) 外部機関と連携し、経営戦略や人材・組織等に係るマネジメント研修を実施し、校長のマネジメント力向上を図ります。(イ) 毎月、小中それぞれのブロック別での校長研修を実施することによって、各学校の状況に則した理論研修や取組の交流等を行います。(ウ) 「福山100NEN教育」の仕組みや具体的取組に学校の意見を反映させるため、希望する教職員を募り、授業づくりや教職員研修、働き方改革やICT活用などをテーマにアイデアを出し合う研修を計画的に行い、校長の意識的・主体的な参画を促します。イ 状況把握及び相談・指導体制では、従来から、学校指導員を相談窓口として、日常的な学校経営に関する指導・助言を行うと共に、日時、場所、対象者、内容等、学校の希望に応じ、教育長や指導主事等の学校訪問を実施してきたところですが、これらに加えて、次の二つの取組を実施します。(ア) 各学校の課題を把握し、具体的な解決につなげ

ることを目的とした、学校指導員等による学校訪問を実施します。そして、学校訪問により把握した課題については、内容に応じて、指導主事や管理主事等の中から支援チームを編成し、課題の内容や要因を整理しながらすみやかな解決を図ることとします。(イ)年3回の校長面談は、教育長や学校教育部の管理職が実施していますが、新たに管理部も加わり、教育内容、予算執行、環境整備等、多様な視点での指導・助言を行います。その際、広島県教育委員会が策定予定の「教員等資質向上指標(校長)」に基づき、校長が自らの課題を明らかにする自己評価及び指導主事等による他者評価を実施することによって、校長の資質・能力の向上を図ります。ウ 情報の共有化及び施策への反映では、従来から、学びの理解につながる外部研修の案内、講演の紹介、授業での子どもの姿等を、校務支援システムに掲示し、いつでも閲覧できるようにしてきたところですが、これに加え、指導・支援策の内容も踏まえた情報の提供や、各校の取組を教育委員会ホームページに掲載し、校長同士が互いに切磋琢磨できるような情報の共有化に取り組みます。今、御説明した、充実する、また新たに実施する指導・支援策の評価を行うとともに、指導・支援を行う過程で明らかになった課題については、教育委員会において、必要に応じて検討し、すべての校長と情報を共有し、施策に反映してまいります。

福山100NEN教育の推進にあたっては、これまでも子どもたち、教職員とともに、学びを変える取組を継続してきたところです。今日説明した指導・支援体制の充実を図りながら、これからも教育委員会と学校が一緒になって子ども主体の学びづくりに向けて取り組んでいきたいと考えています。

三好教育長

続いて、学校再編推進室から報告をお願いします。

藤井学校再編
推進室長

資料4ページをお願いいたします。

3 学校再編に伴う開校準備委員会の設置について、御説明いたします。常金中学校と新市中央中学校を再編し、2022年4月に新たな学校を設置するに当たり、開校に向けて必要な事項を協議するため、昨日1月19日に開校準備委員会を設置しました。校名、校歌、校章、通学、服装、PTA、地域連携などについて協議します。委員会は、再編対象校の保護者、地域住民の代表者、校長、教育委員会事務局管理部長の29人で構成します。昨日は、委員長及び副委員長の選出、協議スケジュールの確認、3つの部会(通学等、PTA、地域連携部会)の設置、そして校名について協議しました。校名は、関係者への公募は行わず、開校準備委員会の委員で検討し、決定することにし、新たな校名とするか、現行の校名を採用するかを次回協議することとしました。参考として、開校までの主な取組をお示ししています。今年度は、開校準備委員会の開催・協議のほか、生徒の交流事業の実施、教育課程の編成、学校運営に係る協議、校舎等改修設計、来年度は、これらに加えて、学校説明会や備品等整備、校舎等改修工事を行います。

以上です。

三好教育長

報告について、御意見、御質問はありませんか。

菅田委員

支援体制の充実に向けてですが、3ページ、イの(イ)で広島県教育委員会が策定予定の指標に基づく自己評価及び他者評価を実施することによって、校長の資質・能力の向上を図る、とあります。福山100NEN教育を進めるにあたり、子どもたちのためにも、教育委員会が評価をすることは大切なことだと思いますが、評価することが強くなってしまうと、今

まで思っていたことが、なかなか言えなかったり、委縮してしまうことはあってはいけないと思います。透明性をもった評価のあり方が必要だと思いますが、どう考えていますか。

佐藤教育次長

広島県教育委員会の指標に基づく評価についてであります。委員が言われたように、子ども主体の学びは、新学習指導要領で掲げる大きな柱です。それを進める上で、校長が自己の取組について、指標をもとに、自ら課題を認識し、振り返りを行った上で、その自己評価に対して、教育委員会が評価をすることになります。指標においては、校長が意欲をもって職務に取り組むことを意識づける、実際に学校経営できるよう、県教育委員会で中身を検討していると聞いています。校長と福山市教育委員会が対話することで、子どもたちとともに、子どもたちを中心においた教育が進められると考えています。

菅田委員

今言われたような評価の体制によって、自分ではない他者からの評価に対して、正しく評価されているという肯定的な捉え方ができるような取組は、どう考えていますか。

佐藤教育次長

今日御説明した指導・支援体制の充実の取組の中でも、これは今もやっていますが、校長あるいは教職員との対話を日常的に継続していく中で、評価の時点だけで捉えるのではなく、取組の過程に着目して評価することがそれぞれ校長・教職員と教育委員会との適正な評価につながっていくと考えています。当然、書面や評価指標だけで評価するのではなく、日頃の考えや思いを聞く中で、より意欲につながる評価にしていきたいと考えています。

菅田委員

良い方向に進むよう評価するのだと思うので、うまくまわっていくよう期待しています。

神原委員

2 ページに、7, 8 割の校長から肯定的かつ積極的な回答がなされている、という記載がありますが、逆の見方をすると、2, 3 割の校長はそうではないということだと思います。2, 3 割の校長がそうではない、肯定的かつ積極的な回答をしていない理由や背景の事情について、教育委員会として、十分でなかった点など原因は思い当たりますか。

佐藤教育次長

学校においては、子どもの学ぶ姿をみていくことで、主体的な学びにつなげていくという取組をしています。子どもの姿の変容の中から、どうしても、教員が手を出しすぎる状況があるのも事実で、主体的な学びづくりが十分ではないという受け止めだと思っています。校長が主体の学びづくりを進めていくというしっかりとしたリーダーシップを発揮しながら、教職員と子どもたちを中心にすえた教育が十分にできていないと受け止めています。

神原委員

100NEN教育が6年目を迎え、教育だけでなく、いろんな分野で仕組みや考えが変わっていく中で、その変革についていけない、変革の背景事情を十分に理解できていない方はどの分野でもいると思います。さきほど菅田委員が言われたように、評価は私も気になるところです。評価が目的になるのではなく、評価はあくまで手段で、目的は100NEN教育を現場のトップである校長が理解し、一枚岩となって、みんなで福山の教育行政を進めていくという方向につながる評価であってほしいと思います。評価については、ごまかすことなく、シビアに評価をつけるべきだと

と思いますが、その後のフォローについて、一緒になって100NEN教育を進めていく校長になってもらうことを主眼にするべきだと思います。また、ここには書かれていませんが、校長の中にはメンタルヘルス、精神的につらい校長がいると思います。そういう校長が変革でリーダーシップを示そうと思うと、とてもエネルギーを要求されると思うので、メンタルヘルスケアのようなことも含め、校長が疲弊してしまわないように支援体制を整えてほしいと思いました。

横藤田委員

両委員が言われるように、評価はとても大切だと思います。民間では人に対する評価を人事考課と呼んでいます。大事なことは、評価する側の資質、評価した後のフィードバックの2つが大切だと人事考課のセミナーで聞きました。その2つに対して現状、評価する側の資質やレベルが合わせられるようになっているか、評価する側の教育はされているか、また、評価後のフィードバックによってモチベーションをあげることになっているか、教えてください。

井上学びづくり課長

先ほど、委員が言われたとおり、評価する側の資質・能力として、まずは教育委員会が子ども主体の学びづくりを理解することが大事だと思っています。指導主事の研修等を含め、私たちが主体的な学びに向けて、どういった教育を目指すのかを理解することについて、引き続き大事にしていきたいと思っています。

また、評価については、できている、できていないという結果ではなく、各校長と私たちが、どこを目指すのか、同じ視点をもてるように県教育委員会作成予定の指標をしっかりと活用していきたいと考えています。何ができていないのか、どうしたらそれができるようになるか、具体的に校長と話ができるよう考えていきたいと思っています。先ほど教育次長からも説明したとおり、決して、面談や校長が書いた紙だけを見て評価するのではなく、教育長をはじめ、指導主事が学校を訪問し、学校の様子や子どもたちの姿をみて、どういったことをがんばっているか、これからどのようなことに取り組んでいく必要があるか、校長、教職員と対話していくことを今以上に大切にしていきたいと考えています。

横藤田委員

わかりました。

金委員

3ページのウの情報共有化及び施策への反映の中で、「校長同士が互いに切磋琢磨できるような情報の共有化」というところが、漠然としていて、よくわかりません。また、「これらの指導・支援策の評価を行うとともに」の部分、言葉だけが書かれているようであまり見えてこない文章です。具体的にどうするのか、書いてもらいたいと思います。

また、全体を通して、市長からの通知にある、「校長に対するサポートや校長からの相談に対応する適切な指導体制が必ずしも十分ではない」という、目的、目標が校長にしかありません。病院であれば、院長だけでなく、院長をサポートする副院長がおり、それをサポートする各課の長がいて、ひとつの理念に向かっているというのが運営経営だと思います。しかし、今回2ページに渡る中では、オンリー校長。校長は船長なので、責任は持っているとはいえ、素晴らしい校長だけでなく、それほどでもない校長もいます。その脇を支える教頭の文言が入っていません。これは、ともに100NEN教育を進めていく中で、校長とともに、教頭も互いに力を合わせて、というニュアンスが入るべきだと思います。校長だけの話になっており、全体を通して違和感があります。

また、最初に指摘したウについては、言葉が浮いており、切磋琢磨でき

る情報とはどういう情報で、それをどう横に流していくか、今回は具体的な方針を示したものではないのだと思いますが、整理が必要だと思います。

井上学びづくり課長

1点目のウの情報の共有化及び施策への反映について、今、教育委員会では、教育委員会から指示するのではなく、各学校が主体的に考え、判断して教育活動を行うことを大切にしています。その中で、今回、一斉にどの学校も見るができるようにしたのは、生徒指導規程の見直しについてです。多様性を認める、一人一人の違いを大切にする中で、どの学校も生徒指導規程の見直しをしています。地域、学校、保護者、子どもたちなど、それぞれの実態によって、中身や進捗も変わってきます。そういった意味で、各学校がどう生徒指導規程を見直しているか、ホームページに掲載することで、校長がそれを見て、互いに連絡をし、質問などができるよう考えています。

今年度、コロナの状況下で、様々な教育活動が制限されました。その中で、各学校、それぞれ教職員が今できることを考え、実践してきました。これはホームページではありませんが、各学校の取組は共有してきたところです。今後もホームページ等で情報の共有化を図っていききたいと考えています。

また、今回の中身が校長のことだけになっているという点について、多くは、学校長が各学校をどうマネジメントしていくかということを書いています。しかし、言われたとおり、校長も様々な校長がいますし、その中で、教頭、主任、力を合わせて子ども主体の学びに向かっていますので、教職員研修等の充実も引き続き図っていききたいと思います。

三好教育長

今、各委員からいただいた意見は、まさに、何とかしたいと思い、取り組んでいるところです。教育委員会と学校の関係が、組織や体制では、指導する側と指導される側になっていますが、そうではなく、一緒にやっついこうというメッセージを出し続けてきました。是正指導以降、校長を中心にした学校経営の組織をつくろうとしてきました。その結果、縦のラインが強くなり、時代が変わっていく中でも、自由な発想や思い切った取組ができにくい状況がありました。100NEN教育を進めるにあたり、フラットな人間関係、縦と横のバランスを大切にしてきました。かつては教育委員会が指導するということが強くありましたが、その関係も変えようとしています。子どもたちのために、子どもたちとともに、教職員とともに、一緒につくっていこうと取り組んでいます。

思いは委員のみなさまと一緒にです。いただいた意見で再整理するとともに、しっかりと取り組んでいききたいと思います。

金委員

学校再編について、学校名を開校準備委員のみで決めることは、地元の方も良しとされていますか。

藤井学校再編推進室長

昨日の委員会では、校名について、委員の様々な意見が交わされました。「新しい学校をつくるということから、これまでの再編のように広く地域に公募する」という意見もありましたし、「開校の2022年4月を見据え、校名は早く決めて、子どもたちが安心して準備を進めていけるようにしよう」「校名は、各団体の代表者で構成する開校準備委員会で決めたらいいのではないか」という意見が出ました。様々な議論をされる中で、最終的には、公募は行わず、開校準備委員会が責任をもって、新しい校名にするのか、現行の新市中央中学校という校名でいくのか、各団体で関係者の意見を聞き、次回持ち寄って決めるということになりました。

三好教育長	その他，御質問，御意見はありませんか。
全教育委員	(なし)
三好教育長	それでは，これより秘密会とします。 傍聴人は退席してください。
	(傍聴人 退席) (秘密会部分 削除)
三好教育長	予定しておりました議案は全て審議いたしました，他に何か，ありませんでしょうか。
全教育委員	(なし)
三好教育長	ないようですので，本日の教育委員会会議はこれで終わります。
	【閉会時刻 午後 3 時 4 0 分】